初対面会話における話題転換構造に関する一考察
――日中社会人のデータをもとに――

蔡　諒　福

The Study of Structure of First-time Conversational Topic Changing: Based on Data of the Japanese/Chinese Society Members

TSAI Liang-Fu

This article indicates the shortage of dividing "topic changing section" into only "topic ending part" and "topic starting part" in the previous study of topic changing. The article also takes the data of the Japanese/Chinese society members as an example, and suggests that when analyzing the changing of topic, between the "ending part" and "starting part", "intermediate part" should also be taken into consideration. Moreover, this article analyses the conversation data of the Japanese/Chinese society members while using 8 types of topic changing constructional patterns, which are formed by the combination of elements in ending, intermediate, and starting parts of the topic changing section. As a result, the Japanese group uses 4 of the 8 patterns with a usage rate of 84%, 3 of the 4 are complex patterns, while up to 76% of conversations in the Chinese group use only "topic ending expression" and "no topic changing expression". Therefore it reveals the different tendencies of topic changing patterns in the Japanese and Chinese language.

キーワード：　初対面会話、社会人、話題転換構造、中間部

1.　はじめに

初対面会話は初期段階の人間関係の形成に大きく影響を与えているが、

接触場面では、相手の言語を使用する際、自分の母語の慣習に影響されることによって、相手に思わぬ違和感を与えてしまうことがあり、話題転換はそのうちの一つであると考えられる。従来の話題転換に関する研究では、母語場面および接触場面に関するものが数多くなされてきているが、その多くは大学（院）生を対象とする研究であり、実社会で活躍し、円滑なコミュニケーションをより重視している社会人を対象とする研究は非常に限られている。また、話題転換構造について、いくつかの先行研究で言及され、その定義がなされているが、実際の会話における話題転換に対し、必ずしも十分に対応しきれるとは限らず、新たな定義が必要であると考えられる。よって本稿では、日本および中国の同性社会人による初対面会話のデータをもとに、先行研究における話題転換構造に関する定義を検証したうえで、新たな話題転換構造を提案したいと思う。

2.　先行研究における話題転換構造および問題点

話題転換は会話の進行中、話の焦点が移行するプロセスである。従来の話題転換に関する研究では、その移行のプロセスおよび表現の内容に焦点を当て、主に会話者間のやり取りによる「相互作用」（West & Garcia, 1988；村上・熊取谷、1995；楊、2005、2007）、話題転換に関する「言語・非言語的要素」（メイナード、1993；村上・熊取谷、1995；木暮、2002；中井、2003）、そして先行話題と後続話題の「話題内容のつながり」（村上・熊取谷、1995）といった 3 点に焦点を当てた研究がなされている。そのうち、「相互作用」と「言語・非言語的要素」に関連する研究は、全ての話題転換表現を一つの話題転換部としてまとめて分析したもの（メイナード 1993；木暮 2002）と、「先行話題の終結部」および「後続話題の開始部」に分けて分析したものがある[1)]。次の表 1 では、日本語または中国語を対象とする話題転換に関する研究の一部、およびそれが注目する話題転換構造を示し、さらに表 2 では、そのうちの「話題終了部」または「話題開始部」に関する定義をまとめている。

表 1　中国語と日本語の話題転換の先行研究一覧

研究場面	研究対象	研究	注目の話題転換構造
母語場面	日本語母語場面	メイナード（1993）	話題転換部全体
		村上・熊取谷（1995）	話題終了部／話題開始部
		中井（2003）	話題終了部／話題開始部
	日中対照	楊（2007）	話題終了部
接触場面	四カ国留学生	木暮（2002）	話題転換部全体
	中国語母語話者	楊（2004）	話題終了部／話題開始部
	中国語母語話者	楊（2005）	話題終了部／話題開始部

表 2　先行研究における話題終了部および話題開始部に関する定義

研究	話題終了部の定義	話題開始部の定義
村上・熊取谷（1995）	先行トピックの終結部では受け入れのことばが短かったり、誰も次の話順を取らずに沈黙が生じたり（後略）	後続トピックの開始部では「ねえ」のように相手に働きかけることばや「でも」のような談話標識
中井（2003）	情報提供者：最後の実質的な発話による情報提供 協力者：応答（相づち、前の発話の繰り返し、評価表現）、情報要求	情報提供者：情報提供（による応答）、同意要求 協力者：情報要求、応答（相づち、前の発話の繰り返し、評価表現）
楊（2004）	相づち、まとめや評価、笑い、くり返し、声が小さくなる、沈黙	ためらい表現およびフィラー、接続詞、認識の変化を示す感動詞、呼びかけ、メタ表現、声が大きくなる
楊（2005）	相づち、まとめや評価、笑い（はっきりとした呼気を伴う笑いで、微笑みは含まない）、くり返し	言いよどみ表現、接続表現、認識の変化を示す感動詞、呼びかけ、メタ言語表現
楊（2007）	新規話題が導入される直前の、一つまたは連続した複数の話題終了行動が見られる部分（① 相づち ② まとめや評価 ③ くり返し ④ 笑い ⑤ 声が小さくなる ⑥ 沈黙）	なし

（下線は筆者）

従来の話題転換に関する研究では、表 1 で示したように、話題転換構造を一つの塊として分析するか、もしくは「話題終了部」および「話題開始部」に分けて分析するが、実際の会話における話題転換は、このような一つまたは二つの構造に分類しきれない（属さない）場合が多く見られた。例えば表 2 で示したように、村上・熊取谷（1995）では、話題間の沈黙を「先行トピックの終結部」と見なされ、楊（2004; 2005; 2007）では、新規話題が導入される直前の行動（笑いや沈黙を含む）を「話題終了行動」、ためらい表現およびフィラーを「話題開始行動」と見なされているが、実際の会話における話題転換の状況には当てはまらないことがよくある。例として次の会話例 1 を見てみよう。

［会話例 1］社会人学生（大学院）⇒ 研究内容（研究）[2)]

104	JM4	高校の教員もー結構大学と同じような…Z 大の大学とー、同じような扱い…をされるんでー｛左手を左右に動かす｝｛<u>頷く</u>｝
105	JM3	<u>ああーーー↓、そうですねー</u>$\boxed{\text{(2) えーーー↑ (1)}}$<u>えー</u>○○ってに、日本ですか↑、か、海 / 外ですか↑
106	JM4	/ 日本、日本です

従来の研究における話題転換表現の定義に従えば、JM4 の「頷く」および JM3 による「ああーーー↓、そうですねー」（発話番号 104 ／ 105 の下線部）は話題終了表現で、後続話題の最初にある「えー」（二重下線の部分）は話題開始表現であると考えられるが、その間にある「(2) えーーー↑ (1)」（四角い枠）は、JM3 による無意味なフィラー、および会話者双方による沈黙が混じっており、この部分は従来の話題転換表現の定義では話題終了表現にも話題開始表現にも当てはめにくく、明確に説明されていないことがわかった。仮に先行研究の定義に従う場合、それが「話題終了表現」もしくは「話題開始表現」のどちらに認定されてしまう可能性があると考えられる。また、三牧（2008）では、上述した話題転換の部分について次のような記述がある。

「先行話題がそれ以上継続しないという終了のサインが発せられた後に、常に新話題がスムーズに導入されるとは限らない。新話題の導入までに一定以上の時間がかかる場合には、可能な限り沈黙を回避し、気まずさを緩和するために様々な言語行動や非言語行動がとられることがある」(p. 38)

三牧(2008)では、上述したような話題転換の部分に触れているが、話題転換の仕組みについてさらに言及していない。このように、話題転換がスムーズに行われず、話題終了表現にも話題開始表現にも属さず、宙に浮いている状況に対し、従来の研究における話題転換構造の分類では対応しきれなく、かつ明確な説明がなされていないため、その定義の適切性に問題が生じ、話題転換部の構造を見直す必要があると考えられる。以上に基づき、本稿では、日中の社会人による母語場面の初対面会話データを通して話題転換構造の定義について説明と分析を行い[3)]、話題転換に関する研究における話題転換部の構造の在り方について考えていきたいと思う。

3. 分析方法

3.1 会話データの収集[4)]

会話データ収集の対象者は日本、中国の社会人(25–35歳)とした。日本グループ(以下JG)と中国グループ(以下CG)は男女各12名で、日中の協力者数は総計48名である。組み合わせは初対面の同性協力者2名を一ペアとし、各ペアの15分間の自由会話を録音・録画した。会話データの収集場所は、日本人協力者は大阪(日本)、中国人協力者は北京(中国)である。

3.2 話題の認定

三牧(1999)を参考に、話題の定義を「会話の中で導入、展開された内容的に結束性を有する事柄の集合体を認定し、その発話の集合体に共通した概念を「話題」と認定する。また、会話参加者の相互協力によって話題の枠組みが設定され、話題が選択され、展開すると考える。話題認定作業は、この定義に基づき、筆者のほか、共同研究者(日本語母語話者)2人と共同で行った。本稿では、認定された大話題と小話題によって先行話題と後続

話題の話題内容のつながりを確認しながら分析を行うことにする。

3. 3　話題数および話題転換箇所の数

全会話の話題を大小話題に分けて集計した結果、JG は 88 の大話題と 192 の小話題、CG は 143 の大話題と 261 の小話題を割り出している。CG の大話題数は JG の 1.6 倍、小話題数は JG の 1.4 倍であり、CG の話題数は比較多いことがわかる。

表 3　JG/CG の話題数および話題転換部位数

グループ	大話題数（転換箇所数）	小話題数（転換箇所数）
JG	88（88）	192（143）
CG	143（143）	261（193）

また、最初の大話題が始まる状況を分析の範囲に入れたため、大話題数とその話題転換箇所の数は同じである。また、先行の大話題における最後の小話題が、後続の大話題における最初の小話題と隣接する場合、その話題転換箇所は小話題転換箇所ではなく、大話題転換箇所と見なす（表 3）。

3. 4　本稿が定義する話題転換部の構造

2 における話題転換部の定義の不足に関する説明を受けて、本稿は従来の研究で注目の焦点として取りあげた「話題終了部」および「話題開始部」の間に、さらにそのどちらにも属さない「中間部」を加え、話題転換部は基本的にこの 3 つの部分の組み合わせによって構成されると提案する。「中間部」は、話題終了表現と話題開始表現の間に現れる言語的・非言語的表現（沈黙を含む）のことで、話題終了機能も話題開始機能も持たず、先行話題から後続話題にスムーズに（または素早く）移行できない場合によく現れる。中間部は話題間の空白（沈黙）が生じる場合や、またその空白を埋めるために実質的意味を持たない何らかの言語的表現・非言語的表現が使われる場合があり、後者は先行話題と後続話題をつなぐ作用を持っていると考えられる。

以上の説明に基づき、話題転換部の構成要素として、従来の話題終了部

図 1　本論における話題転換構造

および話題開始部の間に、さらに「中間部」を加えた結果、本稿における話題転換構造は次の図 1 のようになっている。

図 1 で示している話題転換構造における 3 つの要素は、話題転換表現の有無やその表現の種類によっていくつかの組み合わせが可能であり、それについて 3.6 で触れることにする。

3. 5　話題転換部の表現

話題転換部における表現の定義について、研究によってやや異なっているが、本稿では 3.4 の話題転換構造に基づき、先行研究を参考にしながら、本稿の会話データをもとに、話題転換と比較的関わると思われる言語的表現および非言語的表現を次の表 4 にまとめた。

表 4　話題転換表現項目

	言語行動	非言語行動
話題終了部	あいづち、短い応答や評価、くり返し、言い淀み	笑い、頷き、声が小さくなる、身体を動かす、その他
中間部	フィラー、メタ発話	沈黙、笑い、その他
話題開始部	相手に働きかける言葉、認識の変化を示す感動詞、接続詞、メタ表現	笑い、声が大きくなる、身体を動かす、その他

表 4 で示した言語行動および非言語行動は、実際の会話の状況によっては、すべて直接話題転換の機能を担っているというわけではないが、それが現れることで、話題を転換するきっかけとなり、間接的に話題転換を促進する効果があると考えられる。また、相手に働きかける言葉とは、「あのー」、「ねー」のような言語的表現で、認識の変化を示す感動詞とは、「えっ」、「あっ」のような会話の展開の手がかりを示す表現である。また中

間部における「メタ発話」とは、「会話の途中で話題に窮した状況となった場合において、会話参加者が会話の流れから一時的に離脱し、それに反応する言語行動」であり、「メタ（言語）表現」（例えば「話が変わるけど」のような話題を取りあげることを示す表現）とは性質が異なっている。

3. 6　話題転換構造パターン

3.4 の図 1 で示した話題転換構造は、3 つの要素（話題終了部／中間部／話題開始部）の組み合わせによって次の表 5 で示したような 8 つの話題転換構造パターンができると考えられる。

表 5　話題転換構造パターン

① 話題終了部＋中間部＋話題開始部	② 話題終了部＋中間部
③ 話題終了部＋話題開始部	④ 中間部＋話題開始部
⑤ 話題終了部	⑥ 中間部
⑦ 話題開始部	⑧ 話題転換表現なし

以下は、表 5 の 8 つの話題転換構造パターンについて、JG および CG による話題転換の会話例を挙げながら説明する。また、会話例 ① ② ④ は JG、③ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ は CG によるものである。（下線：話題終了表現；四角い枠：中間部；二重下線：話題開始表現）

①　話題終了部＋中間部＋話題開始部

［会話例 2］学科 ⇒ 授業内容

154　JF10　でも、まあ、一応…まあまあ｛机の下で両手を動かす｝美術大学、な // んでー、一通りのアカデミックなことは知ったけどー / うーん、まあ、別｛ウフフ｝そん / な｛体を前後動かす｝

155　JF9　/ うん / あーあーあ / え、なんで｛笑い｝へー↑｛茶を飲む（2）｝えー、どんなことを勉強されるんですか↑

156　JF10　えー、どんなことを｛左手で頭をかく｝（1.5）普通に授業もありますよ

話題転換部における 3 つの要素が揃って現れる会話例である。先行話題の終了表現のあと、二人の会話者は次にどのような話題にするか分からないようで、 場面の気まずさを紛らわすかのように、 体を動かしたり（JF10）、フィラーやお茶を飲んだりするような行動（JF9）が見られ、その後 JF9 によって次の話題が取りあげられた。

② 話題終了部＋中間部

［会話例 3］分野 ⇒ 趣味

143	JM2	なんか、ストーリーがあってー次こうなってほしいというのがあるからー、この数式をこんな、せんとあかんとかって自分らで頭ででてくるんで、公式とかは覚えないんですけどね、逆に
144	JM1	あーそうですか。へーーーや、その、あの、思考回路、僕には、全然わからないですねー
145	JM2	いやいや、そんなことは↓
146	JM1	へーーそですかー↓
147	JM2	(2) 今は、そうするともーあれですか、趣味とかはあまり、仕事のほうがお忙しくて

会話番号 145 と 146 で会話者双方の音声が小さくなるにつれ、先行話題は終了の方向に向かい、2 秒の沈黙の空白（中間部）5）を経たあと、JM2 から次の話題を取りあげた。

③ 話題終了部＋話題開始部

［会話例 4］専門の関心 ⇒ エピソード

118	CF2	我们那个同事也是学生物的
119	CF1	啊、是吗↑咱们俩还差不多算同行那样 / {呵呵}
120	CF2	/ {呵呵呵呵}
121	CF2	哎哟，我跟你讲个好玩的、我原来上大学的时候，大二的时候上 QQ（後略）

----------[日本語訳]----------

118	CF2	うちの同僚の専門も生物ですけど
119	CF1	あ、そうか、私たちは同業だと言えるよね / {ハハ}
120	CF2	/ {ハハハハ}
121	CF2	あのね、ちょっと面白いこと教えてあげる、大学にいた頃、2 年生の時 QQ をやってたけど（後略）

会話者双方はともに笑って先行話題を収束させたあと、CF2 はすぐさま相手に働きかける言語的表現を出して、別の話題を取りあげた。

④　中間部＋話題開始部

［会話例 5］年齢のヒント ⇒ 若く見える理由

18	JF8	32 に見えます↑
19	JF7	見えません
20	JF8	あー
21	JF7	(1) あのーー、ぱっと見ーの印象でー {右手で鼻を触ってあごを持つ}、完全に 20 ー、うわ、わっけー、大学の先生の教え子かなーーとか / ー、 思っちゃったんですよ、普通に、/ 22 か 23 / か

この会話例では、会話内容は一方の話者（JF8）が自分の見た目の年齢について相手の話者（JF7）に開示要求をし、JF7 は簡単に答えたあと、1 秒の沈黙と「あのーー」を発してからその若く見える理由について話した。

⑤　話題終了部

［会話例 6］仕事年数 ⇒ 出身大学

8	CM9	你工作几年了?
9	CM10	三年
10	CM9	三年
11	CM10	耶一

12　CM9　哦ー↓、大学是哪的啊?
13　CM10　P 大学的、你呢?

----------[日本語訳]----------

8　CM9　仕事して何年になりますか↑
9　CM10　3 年になります
10　CM9　3 年
11　CM10　えー
12　CM9　oh ー↓、大学はどこでしたか↑
13　CM10　P 大学です、あなたは↑

CM9 によるくり返し（発話番号 10）および双方の相づち（発話番号 11 と 12）により、先行話題が終了の方向に向かっていた。

⑥　中間部

［会話例 7］職歴の回顧 ⇒ 住宅購入

108　CM14　是、找个大公司像那个规章啊、什么流程啊这些对很明确的
109　CM13　然后 ×××× / (2) / 方向不一样、刚毕业没个方向、瞎…瞎撞、什么都干 (2)
110　CM14　/ 是 / 真是这样↑
111　CM14　你在这边买了房子吧?
112　CM13　对，买了房子 {双方点頭}

----------[日本語訳]----------

108　CM14　そう、明確な規定を有する大きな会社を探してみたら
109　CM13　それから×××× / (2) / 方向は違うね、 卒業したばかりでどっちに進むべきか分からないで猪突猛進、何でもやってた (2)
110　CM14　/ そう / 本当か↑
111　CM14　ここで家を買った↑
112　CM13　そう、家を買ったけど {双方頷く}

会話者双方とも話題終了表現および話題開始表現がないまま、2 秒の沈黙の空白（発話番号 109）を挟んで話題の転換が行われた例である。

⑦　話題開始部

［会話例 8］会社の商品 ⇒ 個人の専門

104	CM1	啊、你们是不是开发具有保健功能的这种普洱茶?
105	CM2	普洱茶在云南来说应该是大家都非常非常了解了 / 就是在北方嘛、可能推广起来比较难 / 因为茶吧本来就是卖一种卖的就是卖文化
106	CM1	/ 嗯 / 嗯
107	CM1	he、你当时学的时候、你是学医药吗?

----------[日本語訳]----------

104	CM1	あ、保健効果のあるプーアル茶を開発したっけ
105	CM2	プーアル茶は雲南ではよく知られているけど / 北のほうで普及させるのは難しいかも / だってお茶を売ることはもともと文化を売ることにもなるから
106	CM1	/ un / un
107	CM1	え、学校での専攻は薬学だった↑

会話例 ⑦ は一方的な話題転換の場合であり、認識の変化を示す感動詞「he」は、日本語の「え（えっ）」とは似た発音の表現で、中国語母語場面の会話では話題転換表現としてよく使われている。

⑧　話題転換表現なし

［会話例 9］仕事内容 ⇒ 会社（“⇒”は後続話題開始を示す）

23	CF15	经常是对着一台机器、然后呢，一天也就是不说话、所以说…可能…完了就跟旁边的人有时候说说话、但大部分的人…
⇒24	CF16	你在哪呢↑在哪↑
25	CF15	我在（会社名）呢（会社名）

----------[日本語訳]----------

23	CF15	いつも機械に向かってて、で、一日中何も言わないまま、だから…まあ…終わったら隣の人としゃべったりすることもあるけど、ほとんどの人は…
⇒24	CF16	どこですか↑どこ↑
25	CF15	私は（会社名）にいます、（会社名）

話題転換構造（話題転換部）が存在せず、先行話題の本体から、いきなり後続話題の本体（発話番号 24）に突入した話題転換パターンである。

上の話題転換構造パターンの会話例 ① ② ④ ⑥ は、中間部が含まれる発話例である。従来の研究では、話題転換表現を一つの話題転換部にまとめるか、または「話題終了部」および「話題開始部」に分けているが、話題転換表現における中間部の存在が見過ごされることとなり、そのため、本稿が定義する中間部のような話題転換表現（または部分）は、必ず「話題終了表現」または「話題開始表現」に見なされ、その結果、あいまいな話題転換構造になってしまうと思われる。

表 4 および会話例から、話題転換部における「中間部」は主に話題間に現れる実質的な意味を持たない言語的・非言語的な反応（沈黙を含む）であることがわかる。それが出現する状況として主に 1）先行話題が終了したあと、話題転換がスムーズに行われない場合、および 2）話題転換表現の一つとして用いられる場合が挙げられるが、言語文化や会話の状況によって、どちらかに見られる可能性がある。また、一般的に 2）は 1）の場合より短いのが特徴であると考えられる。ただ、上述した「中間部」を含む 8 種類の話題転換構造パターンの出現傾向は、日中のような異なる言語文化における会話では、必ずしも同じように呈しているとは限らず、それぞれの会話スタイルに適した話題転換パターンが存在していると思われる。よって、もっとも対人配慮を要する初対面会話を通して、話題転換構造パターンの出現状況を異文化の観点から観察し、比較することは、二つの言語間における話題転換の特徴（例えば会話のテンポの相違）を解明するこ

とができ、さらにそれが接触場面のコミュニケーションにどのような影響を及ぼすかが推測できると思われる。

4.　話題転換構造パターン割合の比較

3.6 における 8 種類の話題転換構造パターンに基づき、JG および CG の会話における話題転換箇所の話題転換構造パターンの出現割合を集計した結果を、次の図 2 にまとめた。

図 2 で示したように、JG の話題転換構造の出現率は［終了＋開始］、［終了］、［終了＋中間部］、［終了＋中間部＋開始］と、この前四項目だけで 84% を占めている。一方の CG では［終了］と［なし］両項目だけで全体の 76% を占めており、話題転換構造パターンの割合は JG より偏っていることがわかる。また中間部のある話題転換構造パターンの割合を比較すると、JG は 34%、CG は 14% に止まっており、JG のほうは比較的高いことがわかる。図 2 の話題転換構造パターンの出現率から、JG と CG の共通点として、ともに「話題終了表現」の使用率が高いことが挙げられる。一方、相違点として、JG による［終了＋中間部＋開始部］［終了部＋中間部］［終了部＋開始部］のような複合的話題転換構造パターンと、CG による［話題転換表現なし］の高い使用率が挙げられる。以上の結果から、JG は CG より、沈黙を含む話題転換表現が多くみられ、話題転換の構造は比較的複雑であり、話題間の連結ははっきりしていることがわかる。一方の CG では、話題転換表現がない話題転換箇所は 3 割もあるうえ、沈黙が短く、かつ話題転換表現の使用率が低いため、JG より比較的テンポの速い

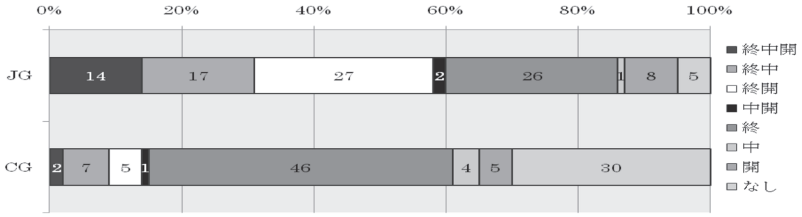

図 2　JG および CG の話題転換構造パターンの出現割合（単位：%）

話題転換の様相を呈していると考えられる。

筆者はJGおよびCGにおける話題転換構造パターンの使用率に差が見られる要因について、1）話題転換表現の働きとバリエーション、2）話題転換部における「間合い」、3）「内容」重視および「形式」重視、といった3つの観点に関わると思われる。以下はそれについて説明する。

1）「話題転換表現の働きとバリエーション」

JGおよびCGによる話題転換部における言語的表現の機能を比較したところ、まずCGでは、話題終了表現として、「un（嗯）」や「oh（喔）」や、短い応答や評価、または相手のことばのくり返しなどが使われ、話題開始表現として、もっとも頻繁に使われているのは相手の注意を喚起する機能を持つ「he」という表現である。一方、JGによる言語的表現は、例えば相づち、くり返し、評価や応答（「はい」「そうですね」など）、言いよどみ（以上は話題終了表現）、相手に働きかけることば（「あの」など）、メタ表現、認識の変化を示す感動詞（「えっ」「あっ」など）、接続詞（以上は話題開始表現）などがあり、機能によって細分化されており、CGと比べ、表現の種類が比較的バリエーションに富んでいる。このように、CGの会話で使われる話題転換表現の種類が限られるうえ、（沈黙を含む）転換表現なしで話題転換を行う場合も多いことから、その機能および働きはJGの場合より比較的単純である。日本語母語場面では、話題転換を行う場合、会話者は先行話題と後続話題との内容的なつながりによって適切な話題転換表現を使っているが、中国語場語場面では話題転換表現の使用は前後の話題内容のつながりにあまり関係なく、使うかどうか、または何を使うかはJGより随意的であると考えられる。話題開始表現を例に挙げて説明すれば、先行話題と後続話題とは内容的につながりがなく、がらりと変わる場合、日本語母語場面では、それを予告する機能を持つ「さて」および「ところで」（ともに接続詞）、または「話が変わるけど」（メタ言語）などのような言語的表現が使われることがあるが、中国語母語場面では、同じような機能を持つ話題転換表現がないため、話題開始表現を使わないまま直接後続話題に入るか、または話題開始表現として汎用されている「he」を使

うこととなる。このように、日中それぞれの母語場面会話における話題転換表現の働きおよびそのバリエーションの相違は、その使用率の差が見られる一因であると思われる。

2）　話題転換における「間合い」

JG および CG の会話における話題転換構造パターンの使用率に相違が見られる一つ要因として、それぞれの異なる会話スタイルによる影響が挙げられると思われる。JG および CG の話題転換部の特徴を比較したところ、もっとも目立った相違は、先行話題本体から後続話題本体に転換するプロセスの有無およびその長さであると言える。図 2 で示したように、JG は CG と比べ、（言語的または非言語的）話題転換表現の使用率が高いことがわかるが、話題転換表現を使用することは、ある意味で先行話題本体と後続話題本体を隔てる意味であり、その話題間に「間合い」を差し入れることになる。同じ中国語母語話者に関する研究として、陳（2002）および蔡（2008）がある。陳（2002）は、日台両グループの討論におけるテーマ間の移行に関して、日本グループにおける「ポーズ」および「クッション」の存在を指摘し、それは移行が唐突すぎないようにする目的があり、台湾グループでは見当たらない部分であると述べている。また蔡（2008）は、日本人母語場面では、多様な言語的表現と（長い）沈黙が、先行話題と後続話題の話題転換を示す主要な働きを担い、比較的明確に話題の転換が表示されると指摘している。このほか、日中両グループの話題転換のプロセスにおける相互作用の在り方の相違もこれに関連していると思われる。楊（2007）では、日本語母語場面は会話者双方による「協働的終了」が 9 割に達し、基本的な話題終了パターンであるのに対し、中国語母語場面では「一方的終了」または「突発的終了」は 6 割を占めるという結果が出ている。本稿では、図 2 で示したように、話題終了部の出現率は CG のほうが JG より高いものの、JG のほうは会話者双方による長い相互作用によって、話題終了部も CG より時間的に長い傾向が見られた。それは中間部とともに、JG の話題間における「間合い」が CG より目立つ一因であると考えられる。

3）「内容」重視および「形式」重視

以上の 1）および 2）では、日中両グループにおける話題転換構造の出現率に相違が見られる原因について説明した。それに踏まえて、さらに両グループの話題転換表現または話題転換構造パターンの使用に影響を与える要因として、日本語母語場面会話における「形式重視」および中国語母語場面会話における「内容重視」が挙げられると思われる。つまり、日本語母語場面では、話題転換を行う際、先行話題と後続話題の内容的なつながりによって（中間部を含む）適切な話題転換表現を使うことにより、相手の会話内容に対する理解を促進し、かつ唐突感を与えないようにする必要があり、話題内容自体だけでなく、話題転換のプロセスにも配慮する必要がある。これに対する中国語母語場面では、話題は如何に転換されるかという形式上の問題より、寧ろ実質的な話題内容自体のほうがより重要視されることから、話題転換表現の種類やその使用率に影響を与えていると考えられる。

以上、話題転換構造パターンの相違を日中の言語文化の観点から見れば、例えば話題転換表現（または短い沈黙）が頻発して話題転換が行われる場合、中国語母語場面では話題転換がスムーズではなく、会話のテンポが遅く、会話の意欲が低いと見られる可能性があるが、日本語母語場面では、反対に話題転換がスムーズに行われているとみられる可能性がある。また、中国語母語場面における「話題転換表現なし」の高い出現率は、中国語母語話者にとって普通であると思われるが、日本語母語話者にとって唐突感を覚えてしまう可能性が高いと考えられる。

5. おわり

本稿は、従来の研究では触れなかった話題転換部における話題転換構造パターンについて、日本人および中国人の社会人による母語場面会話データを通して説明したうえで、その出現傾向を比較、考察した。今後の課題として、この話題転換構造パターンを相互作用の観点から分析することや、語用論転移の観点から、接触場面における会話の分析があげられる。

さらに、「話題終了部」、「中間部」、「話題開始部」に現れる言語・非言語的表現の種類や特徴についても考察したいと思う。

注

1）　メイナード（1993）では話題転換ストラテジー、村上・熊取谷（1995）では「先行トピックの終結部に見られる結束性表示行動」と「後続トピックの開始部に見られる結束性表示行動」、中井（2003）では「話題開始部」と「話題終了部」、楊（2004; 2005; 2007）では「話題終了ストラテジー」または「話題開始ストラテジー」、木暮（2002）では話題転換表現であると、研究によって用語が多少異なっている。

2）［文字化規則］／：同時発話、{}：非言語行動、()：沈黙秒数、↑：上昇イントネーション、↓：下降イントネーション、小文字：小さい声、大文字：大きい声、×××：意味不明の言葉。また、発話者コードについて、J は日本人協力者、C は中国人協力者、F は女性協力者、M は男性協力者であると、それぞれを表している。

3）　初対面会話データを用いる理由は、初対面会話はもっとも疎的な場面であり、そのため話題転換は慎重を要し、話題転換部のバリエーション、または異なる言語間の差異がよく現れると考えられるからである。

4）　本稿で使っている日本人および中国人社会人の会話データは、平成 19 年度―平成 21 年度の科学研究費補助金―基盤研究（C）「初対面コミュニケーションにおける話題管理スキーマに関する日米中韓対照研究」（研究課題番号：19520458／研究代表者：三牧陽子）によるものである。

5）　日本人の母語場面では話題間の沈黙は「意図的に」話題終了のサインとして使われる場合があるが、中国人の母語場面では必ずしも同じだとは言えない。また、沈黙は何一つ判断する材料となる言語・音声的表現を含まない現象であり、日本人母語場面でも、それは「意図的な」話題終了表現かどうかは判断しにくいため、本稿では沈黙の前後の言語的表現の音調などを総合的に検討した上で、それが話題終了部または中間部に属するかを判断した。

参考文献

木暮律子「日本語母語話者と日本語学習者の話題転換表現の使用について」第二言語としての日本語の習得研究 5、（2002 年）、5–23 頁

蔡　諒福「初対面会話における話題転換の対照研究 ―― 日台の大学生を対象に ――」『社会言語科学会　第 22 回大会発表論文集』、（2008 年）、44–47 頁

陳　明涓「フレームに見られる文化的差異 ―― 台日大学生によるグループ討論の場合 ――」『お茶の水女子大学人間文化研究年報』第 26 号、（2002 年）、39–46 頁

中井陽子「初対面日本語会話の話題開始部／終了部において用いられる言語的要素」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』16、(2003 年)、71–95 頁
三牧陽子「初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー――大学生会話の分析――」『日本語教育』103 号、(1999 年)、49–58 頁
三牧陽子「話題の選択と展開に見るポライトネス」『文学』9–6、岩波書店、(2008 年)、32–42 頁
村上恵・熊取谷哲夫「談話トピックの結束性と展開構造」『表現研究』62、(1995 年)、101–111 頁
メイナード、K. 泉子『会話分析』くろしお出版、(1993 年)
楊　虹「中日接触場面の話題転換――中国語母語話者に注目して――」『言語文化と日本語教育』30 号、(2005 年)、31–40 頁
楊　虹「中日母語場面の話題転換の比較――話題終了のプロセスに着目して――」『世界の日本語教育』17、(2007 年)、37–52 頁
West, C. & Garcia, A. (1988). Conversational shift work: A study of topical transitions between women and men. Social Problems 35, 551–573